

平成 2 7 年 6 月 5 日現在

機関番号 : 3 5 4 0 4

研究種目 : 基盤研究(C)

研究期間 : 2010 ~ 2014

課題番号 : 2 2 5 2 0 2 8 1

研究課題名 (和文) 中世イギリス神秘文学の研究

研究課題名 (英文) Studies in Medieval English Mystical Literature

研究代表者

吉川 史子 (YOSHIKAWA, Fumiko)

広島修道大学・商学部・教授

研究者番号 : 5 0 3 5 1 9 7 9

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 3,000,000 円

研究成果の概要 (和文) : 本研究は、中世イギリス神秘主義作品と、それ以外の宗教散文作品のテキストに、語用論研究で提唱されたポライトネス・ストラテジーや談話ストラテジーの分析方法を応用することで、それらの作品の関係をマッピングしようとするものである。研究の結果、各作者が用いたストラテジーに共通点が見られるとともに、相違点も見られることが明らかになった。

研究の過程で、神秘主義作品と他のジャンルとの関わりは、これら二つのストラテジーの分析だけではなく、より様々な側面からの分析を適用して考えるべきものであると考えようになったので、筆者の読者に対する説得的ストラテジーの分析も研究対象に加えて研究を進めている。

研究成果の概要 (英文) : This study started with the purpose that it would map the relationships between medieval English mystical works, such as Julian of Norwich's Revelations of Divine Love and Margery Kempe's The Books of Margery Kempe, and related prose works in other genres, from two viewpoints of pragmatic studies: 'politeness strategies' and 'discourse strategies'. It was found that there are many similarities as well as differences in the strategies the authors adopted in the above-mentioned two mystical texts.

In the course of this study, it was found that relationships between medieval English mystical works and works in other genres cannot be easily explained only by these two types of pragmatic analyses and that we need to think of the relationships in other aspects as well. Therefore, an ongoing part of this research project is to analyze authors' persuasive strategies toward the reader.

研究分野 : 中世英語宗教散文の語用論的分析

キーワード : 神秘主義 中世英文学 史的語用論 ジャンル 文体論 ポライトネス理論 談話ストラテジー

1. 研究開始当初の背景

本研究が扱う中世イギリス神秘主義文学とは、神秘主義思想の影響を受けた文学作品のことをいうが (cf. 高宮・松田編 2008『中世イギリス文学入門』雄松堂)。一口に、神秘主義作品といっても、同じジャンルに属するとは思えないほど異なる種類のテクストが、神秘主義文学と呼ばれている。中世イギリス神秘主義文学は、女性の作家を登場させたことでも、重要な研究対象と見做されているジャンルであるが、中でも特によく知られている二人の女性による作品 (1) Julian of Norwich の *Revelations of Divine Love* (以後 *Revelations* と省略) と (2) Margery Kempe の *The Book of Margery Kempe* (以後 *BMK* と省略) は、実はかなり違った性質のものである。どちらも、キリストの受難のヴィジョンを扱っていることなどいくつかの共通点があるが、*BMK* はかなり自伝的であり、聖地エルサレムや霊験あらたかな寺院への巡礼を描いた部分が多く含まれるため、旅行記的な要素が強い。それに比べると、*Revelations* は、自伝的な要素が少しあるものの、純粋に神学的な作品である。これらの作品を、その内容から、経験的にいくつかのジャンルに関連づける意見が出されたことはこれまでもあったが、より客観的な基準で、各々の神秘主義作品を、他の関連するジャンルに位置づける研究が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、語用論で提唱されているポライトネス理論や談話ストラテジーの分析方法を用いることで、中世イギリス神秘主義文学作品とそれらに影響を与えたと思われる他のジャンルの作品を客観的に分析して比較し、中世イギリス神秘主義作品と他のジャンルの作品との関係をマッピングすることを目的とする研究である。

3. 研究の方法

本研究は、中世イギリス神秘主義作品と、関連するジャンルとの類似性や相違を、語用論で提唱されているポライトネス理論や談話ストラテジーの分析を用いて行うものである。

(1) ポライトネス理論は Brown & Levinson (1978¹, 1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage* によって提唱された理論で、会話分析に多く用いられてきた手法である。Yoshikawa (2009) で、*Revelations* が一人称で語られることから、著者である Julian を話者、読者を聞き手と捉えてポライトネス理論を適用してそのテクストを分析したところ、著者が自らの啓示の解釈の神学的正統性を主張していることを語用論的に明らかにすることができた。このポライトネス理論を用いた宗教散文の分析は、著者で

ある Julian の神学上の立場を明らかにする研究としても役立つと考え、より社会的立場が上の男性作者による宗教散文も同様に分析し、作品によってポライトネス・ストラテジーの選択に違いが見られるかどうか比較した。

(2) 本研究が採用したもう一つの分析方法は、談話ストラテジーの分析である。近代以前の英文学研究にこの方法を適用した先行研究に Virtanen (1995) “Then I Saw to Antique Heddes”: Discourse Strategies in Early Modern English ‘Travelogues’ がある。

これは、初期近代英語で書かれた旅行記の談話ストラテジーを分析した研究で、文頭に繰り返し現れる副詞句の種類や、文の参与者を分析することにより、そのテクストが物語的性質を多く持つものであるのか、もしそうであれば、その旅の物語は、時間や出来事の順序を示すことにより、旅人の通った道筋を読者にたどらせることで、時系列に沿って語られているのかといった点について分析調査し、現代の旅行記と近代英語期の旅行記の類似点と相違点を明らかにしようとしたものである。続く、Yoshikawa (2008) はこの Virtanen (1995) の分析方法に倣って、前述の *Revelations* と *BMK* を比較した。どちらのテクストも時を表す副詞句を文頭に用いて、時系列的に文を結びつけることが多いが、*BMK* には場所を表す副詞句を文頭に用いて文を結びつけている部分が一部見つかった。このことは、*BMK* に旅行記的な内容が含まれるためではないかと思われたが、Yoshikawa (2008) は、中英語で書かれた旅行記を分析していなかったため、どの程度、同時代の旅行記に近いのかを明らかにすることができなかった。そのため、本研究では、この分析方法を旅行記にも適用し、*BMK* の分析結果と比較した。

(3) また、本研究を遂行する過程で、中世宗教散文の文体には読者に対する説得的ストラテジーが多く用いられることに気付き、Halmari (2005) が現代の政治的なスピーチに多く見られることを指摘している十種類の説得的ストラテジーについて、それらが用いられているどうかをいくつかの作品で試験的に調査した。

(4) また、本研究の遂行中に、神秘主義作品を語彙的特徴に基づいて分類できるかどうか見極める必要性に気付いたため、電子可読テクストとコンコーダンスソフトを用いて、キーワードを探す調査を試験的に行った。

4. 研究成果

(1) Yoshikawa (2012) ‘Politeness Strategies in Late Middle English Women’s Mystical Writing’ では、Julian of Norwich の *Revelations* と、Margery Kempe の *BMK*

の二つのテキストを、直接話法中に用いられる呼びかけ表現と、異なる二人称代名詞の選択に着目して、Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論の視点から分析した。二人の著者が用いるポライトネス・ストラテジーを考察することで、各テキストの著者が読者に伝えようと意図していることは異なることを明らかにした。Julian は教会の教えと彼女の啓示の解釈が矛盾しないことを主張することで、著作が異端と見なされる危険性を引き下げようとしており、Margery は、観想したヴィジョンや涙が神から与えられた正統なものであることを主張していることを示した。また、Margery が実に巧みに二人称代名詞を選択していることも例証した。さらに、どちらのテキストにおいても、レベルの違うポライトネス・ストラテジーが層状に効果を発揮していることを示した。

(2) Yoshikawa (2013) 'Discourse Strategies in Margery Kempe's Descriptions of Her Pilgrimages' では、BMK が神秘主義作品であると同時に、自伝的作品でもあり、さらに、巡礼の旅の経験をも描写していることから、中英語の旅行記と談話ストラテジーの観点において比較した。BMK と、旅行記 *Mandeville's Travels* と、聖地巡礼のガイドである *The Stations of Rome* において、文(節)の最初に用いられた時や場所を表す副詞句によるテキストの結束性と、テキスト中で著者への言及がなされるか否かについて比較考察し、それら三つのテキスト間の類似点と相違点を明らかにした。*Mandeville's Travels* とは異なり、*Stations of Rome* は、場所を表す副詞句でテキストの一貫性が保たれており、参与者にも言及する。一方、BMK は大部分において、時を表す副詞句でテキストの一貫性を保ち、参与者に言及する物語形式をとっているが、聖地エルサレムの重要な場所への参詣を描写する部分では、例外的に場所を表す副詞句でテキストに結束性を持たせる場合があることを指摘した。

(3) Yoshikawa (2013) 'Logical Discourse Markers in Julian of Norwich' では、Julian が繰り返し用いる論理的談話マーカーの 'that is to say(n)' の出現箇所の前後文脈を詳しく調べた。オンラインコーパスを用いてこの表現を収集したところ、同時代の説教、教訓物語、教化テキストでも同表現がしばしば用いられることがわかった。読者に啓示の意義をわかりやすく伝えようとする Julian の意図が、神の教えを信徒にわかりやすく説明こうとする説教の意図と共通し、これらのジャンルにおけるこの表現の多用につながっていることを明らかにした。

(4) Yoshikawa (2013) 'How is a Text Classified in Mystical Writing? Typical Vocabulary and Expressions in Middle

English Mystical Writing' は、神秘主義作品を語彙的特徴に基づいて分類することが可能かどうか検討するために試験的に行った調査研究である。ヘルシンキ・コーパスで神秘主義作品に分類されているテキストのキーワードや、いくつかの神秘主義作品と、他のジャンルの宗教散文の電子可読テキストのキーワードを、コンコーダンスソフト AntConc (® 2013 Laurence Anthony) を用いて調査した。その結果、神秘主義作品をキーワードで語彙的に選び出すことはかなり難しいとの結論を得た。例えば、神秘主義作品に頻出する傾向のある語 *contemplacioun, meditacioun, gostli* は、神秘主義作品ではない Nicholas Love の *The Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ* にも頻出する。逆に、*contemplacioun, meditacioun* は神秘主義作品である *Revelations* ではそれほど用いられない。一方、*Revelations* と *BMK* に共通して、Lord の語が高頻度で用いられることなども明らかとなり、語彙的特徴で神秘主義作品を単純に見分けることは難しいが、神秘主義作品をいくつかの語彙的特徴で下位分類できる可能性が垣間みられた。また、いくつかの語で試験的に調査したコロケーションに関しては、ghostly sight, ghostly eye などの表現が神秘主義作品に目立つという事実が明らかになった。

(5) Yoshikawa (2014) 'The Mapping of Rhetorical Strategies Related to Persuasion in Middle English Religious Prose' では、*Revelations* と *BMK* を含む中英語期の四つの宗教散文において、Halmari (2005) が現代の政治的なスピーチに多く見られることを指摘した十種類の説得的ストラテジーが、それら四作品で用いられているかどうかを調査した。その結果、*Revelations* と *Ancrene Wisse* には、用いられる説得的ストラテジーに関して多くの共通性が見られるが、著者が正しいと考える答えに読者を導くような修辞疑問の使用に関しては、*Ancrene Wisse* の著者がそれを多用するにも関わらず、Julian はほとんど用いないことが明らかになった。この説得的ストラテジーについては、今後さらに調査対象作品を増やして総合的に研究する予定である。

<引用文献>

- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson. *Politeness: Some Universals in Language Usage* .1978¹, 1987. Cambridge: Cambridge University Press.
- Halmari, Helena. 'In Search of "Successful" Political Persuasion: A Comparison of the Styles of Bill Clinton and Ronald Reagan', in

Helena Halmari and Tuija Virtanen (eds) *Persuasion Across Genres: A Linguistic Approach*. 2005. Amsterdam: John Benjamins, 105-134.
 高宮利行, 松田隆美 (編). 『中世イギリス文学入門-研究と文献案内-』. 2008. 東京: 雄松堂.
 Virtanen, Tuija. “‘Then I Saw to Antique Heddes’: Discourse Strategies in Early Modern English Travelogues”, in Andreas H. Jucker (ed.) *Historical Pragmatics: Pragmatic Developments in the History of English*. 1995. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins, 499-513.
 Yoshikawa, Fumiko. ‘Discourse Strategies in Late Middle English Women’s Mystical Writing’, in Masachiyo Amano et al. (eds) *Historical Englishes in Varieties of Texts and Contexts*. 2008. Frankfurt am Main: Peter Lang.
 Yoshikawa, Fumiko. ‘Translating Julian of Norwich’s Politeness into Japanese’, in Shinichiro Watanabe and Yukiteru Hosoya (eds) *English Philology and Corpus Studies: A Festschrift in Honour of Mitsunori Imai to Celebrate His Seventieth Birthday*. 2009. Tokyo: Shohakusha.

5. 主な発表論文等
 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計10件)

Yoshikawa, Fumiko. ‘Discourse Strategies in *Ancrene Wisse*’, International Medieval Congress 2010. 12 July 2010. University of Leeds, Leeds, U.K.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Discourse Strategies in Margery Kempe’s Descriptions of her Pilgrimages’, The 16th International Conference on English Historical Linguistics. 26 August 2010. University of Pécs, Pécs, Hungary.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Persuasive Strategies in Middle English Women’s Mystical Writings’, Seventeenth Annual ACMRS Conference. 11 February 2011. Sheraton Phoenix Airport Hotel, Tempe, Arizona, U.S.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Mapping of Rhetorical Strategies Related to

Persuasion in Middle English Religious Prose’, The Seventh International Conference on Middle English. 3 August 2011. Donistel Hotel, Lviv, Ukraine.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Adverbial Connectors as Topic-Shift Markers in Genres Related to Middle English Mystical Writings’, 2011 International Anchoritic Society Conference. 16 September 2011. University of North Dakota, Grand Forks, North Dakota, U.S.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Adverbial Connectors as Topic-Shift Markers in Middle English Religious Prose’, The 17th International Conference on the English Historical Linguistics. 21 August 2012. University of Zurich, Zurich, Switzerland.
Yoshikawa, Fumiko. ‘How is a Text Classified in Mystical Writing? Typical Vocabulary and Expressions in Middle English Mystical Writing’, The 4th International Conference of the Society of Historical English Language and Linguistics. 3 September 2012. Keio University, Tokyo.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Rhetorical Questions in Middle English Prose: Their Illocutionary and Perlocutionary Acts, Textual Functions, and Related Genres’, The 21st International Conference on Historical Linguistics. 8 August 2013. University of Oslo, Oslo, Norway.
Yoshikawa, Fumiko. ‘Julian of Norwich and Medieval Rhetorical Arts of Preaching’, The 5th International Anchoritic Society Conference. 23 April 2014. Gregynog Hall, Newtown, Powys, Wales, U.K.
Yoshikawa, Fumiko. “‘As holy church techyth’: Women Mystical Writers’ Persuasive Devices Which Demonstrate Their Orthodoxy’, Twenty-First Annual ACMRS Conference. 6 February 2015. Embassy Suites Phoenix-Scottsdale, Phoenix, Arizona, U.S.A.

〔図書〕(計5件)

Yoshikawa, Fumiko. ‘Politeness Strategies in Late Middle English Women’s Mystical Writing’, in Hans Sauer & Gaby Waxenberger (eds) *English Historical Linguistics 2008, Volume II, Words, Texts and Genres*. 2012. Amsterdam: John Benjamins. xviii + 271

pp. (pp. 209-222).
Yoshikawa, Fumiko. 'Discourse Strategies in Margery Kempe's Descriptions of Her Pilgrimages', in Irén Hegedűs and Dóra Pődör (eds) *Periphrasis, Replacement and Renewal: Studies in English Historical Linguistics*. 2013. New Castle upon Tyne: Cambridge Scholars. vii + 345 pp. (pp. 268-285).
Yoshikawa, Fumiko. 'How is a Text Classified in Mystical Writing? Typical Vocabulary and Expressions in Middle English Mystical Writing', in M. Hosaka, M. Ogura, H. Suzuki and A. Tani (eds) *Phases of the History of English: Selection of Papers Read at SHELL 2012*. 2013. Frankfurt am Main: Peter Lang. 384 pp. (pp. 285-303).
Yoshikawa, Fumiko. 'Logical Discourse Markers in Julian of Norwich', in Catherine Innes-Parker and Naoë Kukita Yoshikawa (eds) *Anchoritism in the Middle Ages: Texts and Traditions*. 2013. Cardiff: University of Wales Press. xvii + 202 pp. (pp. 47-57).
Yoshikawa, Fumiko. 'The Mapping of Rhetorical Strategies Related to Persuasion in Middle English Religious Prose', in Michael Bilynsky (ed.) *Studies in Middle English: Words, Forms, Senses and Texts*. 2014. Frankfurt am Main: Peter Lang. 367 pp. (pp. 343-360).

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 該当なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉川 史子 (Yoshikawa, Fumiko)
 広島修道大学・商学部・教授
 研究者番号：50351979

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：